

きらめく
まちビト

×
中田一良



今年はSL排雪列車「キマロキ」の展示保存が始まって45周年という節目の年です。10月24日に「キマロキ」の冬囲いを行った「名寄SL排雪列車保存会」。同会の3代目の会長である中田さんに「キマロキ」の魅力や今後の目標などについてインタビューしました。

名寄発展の象徴である「キマロキ」を残し続けていきたいですね。

「キマロキ」の魅力を教えてください

「キマロキ」は4両(車掌車を含めると5両)編成で、先頭から機関車、マックレー車、ロータリー車、機関車(さらに最後尾に車掌車)という編成になっており、それぞれの車両の頭文字を取って、「キマロキ」(車掌車を含めると「キマロキヨ」と呼ばれています。

キマロキはマックレー車とロータリー車で排雪する列車で、普通の除雪はラッセル車で雪を横によけますが、ラッセル車では横によけた雪が次第に高く積み重なり、除雪が難しくなるということがありました。

キマロキは、積み重なった雪を崩すマックレー車と、崩した雪を回転はねで遠くに吹き飛ばすロータリー車が編成されているので、吹きだまりで不通になったときや、線路が密集していて除雪が難しいところで活躍しました。

保存会発足のきっかけは?

幼いころ、機関士の父の影響で、大人になつたら機関士になりたいと思っていました。しかし当時は戦時中で、機関士にはなれませんでした。

SLが廃止になったとき、名寄市職員だった私は、機関士への憧れと、名寄は旭川・稚内間を鉄道でつないで発展した「鉄道のまち」だった証にSLの保管を機関区長などに働きかけ、最終的にはキマロキの保管が、そして展示が始まりました。保存会発足時の会員は、ほとんどが国鉄OBで、一般人は私だけでした。

んなにいい状態で保存されているSLは他に見たことがない」と言ってもらう機会がありますが、保存会も高齢化のありを受け付けており、キマロキ展示が途切れないよう後継者につなぎ、感動を与え続けていきたいです。

保存会ではどのような活動を?

主な活動は、日曜日と祝日に管理・清掃・見学者の案内を行っているです。さらに毎年4月末の大型連休前に冬囲いを外し、6月の天気の良い日にキマロキの塗装を、10月中旬にまた冬囲いをします。

市民の皆さまにひとこと

キマロキの展示保存が始まって45年、名寄が「鉄道のまち」だったという証でもあるので、市民のみなさんには、名寄はこういう町だったということを後生に伝えるためにも、見に来て欲しいです。

これからの目標

全国各地から見学者が来て「良く整備されてますね、こ



▲毎年6月に実施しているキマロキの塗装作業の様子

Profile

中田 一良 (なかた かずよし)

昭和3年9月生まれの92歳。西興部村生まれ、3歳から名寄市で育つ。機関士の父の影響で、幼いころから機関車に興味を持つ。名寄SL排雪列車保存会発足から45年間、キマロキを保管理してきた。キマロキにいろいろな仕掛けを施すため、電子機器などで日々研究。

きらめくまちビト…名寄市内で活躍する市民などの紹介を通して、地域の魅力を発信します。